

# まちづくりの底力

祭りを育てたのは一人一人の向上心  
本能をくすぐる仕組みを作ったのは住民力  
そこには、まちづくりの方程式が隠れている

鬼北地方の方言で「でてき  
ませんか」という意味の「で  
ちこんか」。

回を重ねるごとに大きなイ  
ベントへと成長してきました  
が「このまま『にぎやかな祭  
り』で終わらせてはいけない。  
鬼北が起点になり、いろいろ  
なものを発信できる祭りにし  
たかった」と毛利前実行委員  
長は話します。

びつくり市には、地元の子  
どもが多く進学している県立  
北宇和高等学校生産食品科の  
生徒たちも出店しています。  
自分たちが実習で作った野菜  
クッキーや乳酸飲料のカルミ  
ンなどを販売しました。生徒  
たちは「私たちの研究の成果  
をこれだけ多くの人に知って  
もらえたことが嬉しかった」  
と、でちこんかだから味わえ  
る喜びを話していました。

でちこんかが始まった頃に  
生まれた高校生たち。でちこ  
んかと共に成長してきました。  
今、彼らが出店者の立場で参  
加することで、これまで培わ  
れてきた成功の秘訣「人の本  
能をくすぐる仕組み」は、確  
実に受け継がれています。そ  
して、新たに発信する力を育  
てているのです。これがでち

## Top Interview

### 成功の力を握る「住民力」

私が今回から実行委員長を引き受けた理由は「鬼北町民は祭りや町の活性化に一生懸命なのだ」というところをアピールしたい」と思ったからです。第1回目から前回まで歴任していた毛利前実行委員長の後任ということや、今までのようにきじ鍋だけではなく祭り全体を見渡さなければならぬことなど、不安は多々ありました。しかし、商工会職員として「でちこんかを思い続けてきたその情熱を引き継がなければならない」という思いがあったから、乗り越えることができました。

でちこんかは、人と人とのコミュニケーションが取れる場で

つながっていると思います。本当に町の誇りです。  
私は今回のでちこんかも成功に終わったと認識しています。その成功の根底には、必ず人の活力や努力がありました。その住民力で、これからも、人を魅了し続けられる祭典にステップアップさせていきます。



でちこんか2011  
実行委員長  
善家哲也さん

**Profile** ぜんけてつや・1968年旧広見町生まれ。大学卒業後松山市の会社に就職。平成9年にUターンし、広見町商工会に経営指導員として奉職。でちこんかには商工会職員として毎年参加。今回からでちこんか実行委員長に就任。西仲在住。43歳